

キリストの弟子

◆ キリストの弟子とは

- 「イエスは言われた。「わたしに従いなさい。死んでいる者たちに、自分たちの死者を葬らせなさい。」(マタ 8:22)
「それから、イエスは皆に言われた。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」(ルカ 9:23)
「その翌日、イエスは、ガリラヤへ行こうとしたときに、フィリポに出会って、「わたしに従いなさい」と言われた。」(ヨハ 1:43)
- 「ダマスコの諸会堂あての手紙を求めた。それは、この道に従う者を見つけ出したら、男女を問わず縛り上げ、エルサレムに連行するためであった。」使 9:2
 - キリストの弟子であるとは、イエスに従うことです。
 - イエス・キリストに従うとは、イエスの模範や教えを自分の選択や決断の基準にすること、イエスの導きに従って生きることなのです。

◆ キリストの弟子になる目的

- 「わたしはもうこの世にはいなくなりますが、彼らはこの世に残っており、わたしはみもとに参ります。聖なる父よ、わたしに賜った御名によって彼らを守って下さい。それはわたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためであります。」ヨハ 17:11
- 「わたしは御名を彼らに知らせました。また、これからも知らせます。わたしに対するあなたの愛が彼らの内にあり、わたしも彼らの内になるようになるためです。」ヨハ 17:26
- 「イエスが山に登って、これと思う人々を呼び寄せられると、彼らはそばに集まって来た。そこで、十二人を任命し、使徒と名付けられた。彼らを自分のそばに置くため、また、派遣して宣教させ、悪霊を追い出す権能を持たせるためであった。」(マコ 3:13-15)
- 「しかし、わたしが神の指で悪霊を追い出しているのであれば、神の国はあなたたちのところに来ているのだ。」ルカ 11:20
 - キリストの弟子の最終的な目的というのは、(他の人々と共に) 父である神と愛によって結ばれて、一つになることです(神の国)。
 - キリストの弟子は、イエスと共に生き、イエスの使命にあずかります(イエスと同じように神の国を宣べ伝え、証しをし、神の国を広めます)。

◆ キリストの弟子として生き、与えられた使命を果たす可能性

- 「御父がどれほどわたしたちを愛してくださるか、考えなさい。それは、わたしたちが神の子と呼ばれるほどで、事実また、そのとおりです。世がわたしたちを知らないのは、御父を知らなかったからです。愛する者たち、わたしたちは、今既に神の子ですが、自分がどのようになるかは、まだ示されていません。しかし、御子が現れるとき、御子に似た者となるということを知っています。なぜなら、そのとき御子をありのままに見るからです。御子にこの望みをかけている人は皆、御子が清いように、自分を清めます。」(1ヨハ 3:1-3)
 - イエス・キリストが自分の使命を忠実に果たすことができたのは、自分が神の子であると強く自覚していて、それがイエスにとって最も深い自己認識と同時に最も重要な身分(アイデンティティ)になっていたからです。
 - 洗礼を受けることによってキリストの弟子は、神の子になるので、キリストの弟子としての使命を果たすことができるようになります。
 - 洗礼を受けることによって神の子になっても、神の子として(この身分に相応しく)生きていない人が沢山います。
 - 神の愛を知るのを妨げるのは、人間の慣れ(愛の表現に慣れてしまうこと)と期待(愛の表現に関する自分の勝手な想像や要求)。
 - 愛の目的は、自分の欲望を満たすことではなく、愛する人と一つになる(一致する)ことです。
 - 愛するというのは、相手の期待を満たすのではなく、相手のために真の善を行うこと。
 - 愛する人のために真の善を行う(奉仕する)のは、自分を与える(奉獻する)方法です。
 - 神はいつも自由ですので、私たちの期待や要求に左右されずに、私たちのために真の善だけを行ってください。

◆ いつも一緒にいてくださるイエスの助け

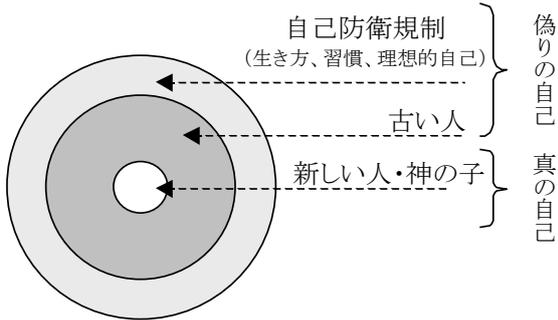
8. 「イエスは、近寄って来て言われた。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」 マタ 28:18-20
9. 「見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。だれかわたしの声を聞いて戸を開ける者があれば、わたしは中に入ってその者と共に食事をし、彼もまた、わたしと共に食事をするであろう。勝利を得る者を、わたしは自分の座に共に座らせよう。わたしが勝利を得て、わたしの父と共にその玉座に着いたのと同じように。」 (黙 3:20-21)
- 復活して、生きておられるイエスは、いつも私たちと共にいて、神の愛を現し、私たちを神のもと（神との一致）へと導いてくださいます。
 - 神の愛を知り、神のもとに近づくために、イエスを自分の人生に受け入れ、イエスの導きに従って生きる必要があります。

◆ イエスを自分の人生に受け入れることの難しさ

10. 「眠っていても／わたしの心は目覚めていました。恋しい人の声とする、戸をたたいています。「わたしの妹、恋人よ、開けておくれ。わたしの鳩、清らかなおとめよ。わたしの頭は露に／髪は夜の露にぬれてしまった。」衣を脱いでしまったのに／どうしてまた着られましょう。足を洗ってしまったのに／どうしてまた汚せましょう。恋しい人は透き間から手を差し伸べ／わたしの胸は高鳴りました。恋しい人に戸を開こうと起き上がりました。わたしの両手はミルラを滴らせ／ミルラの滴は指から取っ手にこぼれ落ちました。戸を開いたときには、恋しい人は去った後でした。恋しい人の言葉を追って／わたしの魂は出て行きます。求めても、あの人は見つかりません。呼び求めても、答えてくれません。街をめぐる夜警にわたしは見つか／打たれて傷を負いました。城壁の見張りは、わたしの衣をはぎ取りました。」 (雅歌 5:2-7)

- イエス・キリストを自分の人生に受け入れることを妨げるもの：
 - 第一の妨げ： 安定の優先と自分（今まで）の生き方への執着（愛着、慣れ、習慣、癖）
 - 第二の妨げ： 私たちの想像と期待
 - 第三の妨げ： 受けなければならない苦しみ
 - ◇ 幻想を手放し、現実に基づいて生きること
 - ◇ 清め（自分の罪を知り、罪から離れること）

📖 「わたしたちは皆、顔の覆いを除かれて、鏡のように主の栄光を映し出しながら、栄光から栄光へと、主と同じ姿に造りかえられていきます。これは主の霊の働きによることです。」 2コリ 3:18



11. 「キリストについて聞き、キリストに結ばれて教えられ、真理がイエスの内にあるとおりに学んだはずですが。だから、以前のような生き方をして情欲に迷わされ、滅びに向かっている古い人を脱ぎ捨て、心の底から新たにされて、神にかたどって造られた新しい人を身に着け、真理に基づいた正しく清い生活を送るようにしなければなりません。」 エフェ 4:21-24
12. 「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思っはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。」 (マタ 10:34) 「あなたがたは、わたしが地上に平和をもたらすために来たと思うのか。そうではない。言っておくが、むしろ分裂だ。」 (ルカ 12:51)

◆ イエスの働きの例

13. 「イエスが旅に出ようとされると、ある人が走り寄って、ひざまずいて尋ねた。「善い先生、永遠の命を受け継ぐには、何をすればよいでしょうか。」イエスは言われた。「なぜ、わたしを『善い』と言うのか。神おひとりのほかに、善い者はだれもない。『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証するな、奪い取るな、父母を敬え』という掟をあなたは知っているはずだ。」すると彼は、「先生、そういうことはみな、子供の時から守ってきました」と言った。イエスは彼を見つめ、慈しんで言われた。「あなたに欠けているものが一つある。行って持っている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。」その人はこの言葉に気を落とし、悲しみながら立ち去った。たくさんの財産を持っていたからである。」(マコ 10:17-23)

◆ キリストの弟子になりたい人が待たなければならない覚悟

14. 「あなたがたのうち、塔を建てようとするとき、造り上げるのに十分な費用があるかどうか、まず腰をすえて計算しない者がいるだろうか。そうしないと、土台を築いただけで完成できず、見ていた人々は皆あざけて、『あの人は建て始めたが、完成することはできなかった』と言うだろう。また、どんな王でも、ほかの王と戦いに行こうとするときは、二万の兵を率いて進軍して来る敵を、自分の一万の兵で迎え撃つことができるかどうか、まず腰をすえて考えてみないだろうか。もしできないと分かれば、敵がまだ遠方にいる間に使節を送って、和を求めよう。だから、同じように、自分の持ち物を一切捨てないならば、あなたがたのだれ一人としてわたしの弟子ではありえない。」(ルカ 14:28-33)

15. 「だれも、二人の主人に仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛するか、一方に親しんで他方を軽んじるか、どちらかである。あなたがたは、神と富とに仕えることはできない。」(マタ 6:24)

- キリストの弟子としての使命を果たし、それによって生かされる(神との交わりを深め、一致に達する)ために、キリストに従うことの難しさを覚悟した上で、イエスに信頼しながら、全力を尽くして、忠実に従う必要があります。

◆ 頼りにすべきもの

16. 「天の国は次のようにたとえられる。畑に宝が隠されている。見つけた人は、そのまま隠しておき、喜びながら帰り、持ち物をすっかり売り払って、その畑を買う。また、天の国は次のようにたとえられる。商人が良い真珠を探している。高価な真珠の一つ見つけると、出かけて行って持ち物をすっかり売り払い、それを買う。」(マタ 13:44-46)

17. 「そればかりか、わたしの主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失とみています。キリストのゆえに、わたしはすべてを失いましたが、それらを塵あくたと見なしています。」(フィリ 3:8)

- キリストの弟子は、何らかの報いを得るためではなく、イエス・キリストの愛のために、つまりイエスの愛に愛をもって応えたい(イエスを受け入れて、自分を奉献したい)、どんな状況においてもイエスと共にいたい、イエスと一つになりたいと求めているときだけ、イエスを自分の人生の中心にして、イエスに最後まで従うことができます。

◆ ペトロの体験とイエスの約束

18. 「食事が終わると、イエスはシモン・ペトロに、「ヨハネの子シモン、この人たち以上にわたしを愛(agape)しているか」と言われた。ペトロが、「はい、主よ、わたしがあなたを愛(philia)していることは、あなたがご存じです」と言うと、イエスは、「わたしの小羊を飼いなさい」と言われた。二度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、わたしを愛(agape)しているか。」ペトロが、「はい、主よ、わたしがあなたを愛(philia)していることは、あなたがご存じです」と言うと、イエスは、「わたしの羊の世話をしなさい」と言われた。三度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、わたしを愛(philia)しているか。」ペトロは、イエスが三度目も、「わたしを愛(philia)しているか」と言われたので、悲しくなった。そして言った。「主よ、あなたは何かもご存じです。わたしがあなたを愛していることを、あなたはよく知っておられます。」イエスは言われた。「わたしの羊を飼いなさい。」「はっきり言うておく。あなたは、若いときは、自分で帯を締めて、行きたいところへ行っていた。しかし、年をとると、両手を伸ばして、他の人に帯を締められ、行きたくないところへ連れて行かれる。」ペトロがどのような死に方で、神の栄光を現すようになるかを示そうとして、イエスはこう言われたのである。このように話してから、ペトロに、「わたしに従いなさい」と言われた。」ヨハ 21:15-19

愛とは何か

1. イエス・キリストが愛のもっとも完全な模範を示してくださいました。

愛は、他者のために真の幸福を求め、力を尽くして善を行うことである。

☞ 「友のために自分の命を捨てる（奉獻する）こと、これ以上に大きな愛はない。」 ヨハ 15:13

☞ 「たとえ、人々の異言、天使たちの異言を語ろうとも、愛がなければ、わたしは騒がしいどら、やかましいシンバル。たとえ、預言する賜物を持ち、あらゆる神秘とあらゆる知識に通じていようとも、たとえ、山を動かすほどの完全な信仰を持っていようとも、愛がなければ、無に等しい。全財産を貧しい人々のために使い尽くそうとも、誇ろうとしてわが身を死に引き渡そうとも、愛がなければ、わたしに何の益もない。愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。愛は決して滅びない。」 1 コリ 13:1-8

2. 誰かを愛するとは、この人のために（この人を高めるために）生きるという無条件の決断である（commitment, コミットメント、献身、傾倒、誓約である）。感情を含むが感情だけではない。

☞ 「わたしは、あなたととこしえの契りを結ぶ。わたしは、あなたと契りを結び／正義と公平を与え、慈しみ憐れむ。わたしはあなたとまことの契りを結ぶ。あなたは主を知るようになる。」 ホセ 2:21-22

☞ 「知らないのですか。あなたがたの体は、神からいただいた聖霊が宿ってくださる神殿であり、あなたがたはもはや自分自身のものではないのです。」 1 コリ 6:19

3. 誰かを愛するとは、この人を無償で、無条件に、ありのままに受け入れることである。（愛によってこの人をより深く知るようになる。この人が貴くて、価値のある存在であることをこの人に知らせる。）

☞ 「主があなたがたを愛し、あなたがたを選ばれたのは、あなたがたがどの国民よりも数が多かったからではない。あなたがたはよるずの民のうち、もっとも数の少ないものであった。ただ主があなたがたを愛し、またあなたがたの先祖に誓われた誓いを守ろうとして、主は強い手をもってあなたがたを導き出し、奴隷の家から、エジプトの王パロの手から、あがない出されたのである。」（申 7:7-8）

☞ 「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである。」 マタ 5:44-45

4. 愛は、一時的なものではなく、いつまでも続くものである。

☞ 「遠くから、主はわたしに現れた。わたしは、とこしえの愛をもってあなたを愛し変わることなく慈しみを注ぐ。」 エレ 31:3

☞ 「愛は決して滅びない。」 1 コリ 13:8

5. 互いに愛し合う人は、自分の幸福よりも、どんな状況においても、（互いに支え合い、助け合い、守るために）一緒にいて、互いの絆を深めることを求める（愛の目的は幸福ではなく、愛の完成である一致です。幸福は、副産物のようなもの）。

☞ 「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」 マタ 28:20

☞ 「行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻って来て、あなたがたをわたしのもつに迎える。こうして、わたしのいる所に、あなたがたもいることになる。」 ヨハ 14:3

☞ 「こういうわけで、男は父母を離れて女と結ばれ、二人は一体となる。」 創 2:24

☞ 「かの日には、わたしが父の内におり、あなたがたがわたしの内におり、わたしもあなたがたの内にいることが、あなたがたに分かる。」 ヨハ 14:20

6. 愛とは、相手に依存することとか、互いに依存し合うこと（共依存）ではなく、愛着や執着でもない。

◆ 愛は、ただ自由の中でだけ成長して行くので、相手の自由を尊重する（自分の満足や他の利益のために他者を利用したり、支配したりしない。他者がいつも自分と一緒にいることを求めても、この人には自分と一緒にいる義務とか、自分のために生きる義務があると思わない。求めても、それを要求する権利が自分にない。）

◆ 愛する人は、自分の自由を保つ（相手と一緒に生きることとか、相手の善のために力を尽くすことは、仕方がないからとか、強制させられたからではなく、自分がそれを自由に選んで、決心したから）。

◆ 本当に愛し合う人は、人間として成長し、絶えずより良い人間、思いやりのある人間になっていくが、依存の関係に生きる人は、成長せずに、その状態が段々と悪くなっていく。